

信濃川の水上交通を通勤・通学などに利用するための実証実験 (実施期間平成16年度)

背景と目的

新潟市は日本海側最大の人口を有する中核市であるが、マイカー、特に通勤におけるマイカー利用のシェアがかつて無いほど高まっており、全国的な同種調査において過去計測されたデータとしては、富山市及び近郊において測定された数値に次ぐ高いマイカー依存結果が示された。地球環境保全の問題がますます重要となって行く中、通勤手段としての利用に関し、何らかの対策を講じなくてはならない。

しかし新潟市においては、日本一の大河信濃川を活用した舟運が活発に利用されていた歴史があり、平成14年6月から新潟市郊外の新潟ふるさと村と市中心部とを結ぶ定期旅客船の運航が始まっている。

この定期航路に通勤客を中心としたマイカー利用者を誘導し、利用促進を図ることにより、CO2排出量の削減を果たすことを目的として、本実験を行なう。

新潟市における交通混雑状況



実施主体

信濃川ウォーターシャトル株式会社

実施概要

2隻の水上交通バスを用い、朝の通勤時間帯(7時～9時)に上下4便、及び夕方(17時以降)に上下4便を新潟ふるさと村と朱鷺メッセの間で割引運賃(通常運賃の4割引)で運航(運航区間：新潟ふるさと村 県庁前 白山 万代橋西詰 朱鷺メッセ)するとともに、新潟市郊外の新潟ふるさと村に水上バス乗客が利用できる駐車場を活用したパークアンドライドを行う。

実施期間

平成16年7月～11月(周知期間等を含む)

輸送実験は9月1～30日(予定)の1ヶ月間(土曜・日曜・祝日を除く)

増客効果の実証方法

平成15年9月1日～9月21日(土曜・日曜・祝日を除く)の1日平均利用者数と平成16年9月1日～9月30日(土曜・日曜・祝日を除く)の1日平均利用者数を比較する。

信濃川の水上交通を通勤・通学などに利用するための実証実験 航路図



一般国道8号(新潟バイパス)の朝の交通混雑